

| | |
|---|--|
| <p>第20回 大田区移動等円滑化推進協議会 議事録</p> | <p>令和元年 7 月 26 日(金) 10:00～11:00 大田区消費者生活センター 2階 大集会室</p> |
| <p>■議事</p> <p>(1) 委員長及び副委員長の選出</p> <p>(2) 「移動等円滑化促進方針」の策定について</p> <p>(3) 今年度の「大田区移動等円滑化推進協議会」の活動について</p> <p>■配布資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1 大田区移動等円滑化促進方針の策定について ・参考資料1-1 大田区移動等円滑化推進方針(おおた街なか“すいすい”ビジョン) ・参考資料1-2 大田区移動等円滑化推進方針・推進計画(中間見直し) ・参考資料2 移動等円滑化促進方針・バリアフリー基本構想作成に関するガイドライン ・参考資料3 第 19 回協議会資料(抜粋) | |

■質疑応答/意見交換

1. 「移動等円滑化促進方針」の策定について(資料1)

- 委員 : 前もって郵送いただければ、十分読んで話についていくことができたと思うが、この場で資料を渡されても理解が難しい。みなさんも同じだと思う。事前に資料を頂ければ大変ありがたい。いま読んでも質問するのは難しい。
- 委員長 : 後で事務局が一色さんのところに伺って、できるかぎり不明な点を解消していただきたい。次の協議会もあるので、その時には間違わないようお願いしたい。
- 委員 : 90%バリアフリー化が進んだとしているが、何が90%なのかを聞き漏らした。何をもちて90%なのか教えていただきたい。
- 事務局 : 参考資料3の3地区の特定事業について、合計が蒲田駅周辺地区が89%、大森駅周辺地区では94%、さぼーとぴあ周辺地区では88%と、それぞれ9割近い進捗率ということで、この数値によりご報告させていただいた。
- 委員長 : 数値的には理解されたと思うが、公共交通、道路、音響式信号機等の交通安全、建築物、その他について、それぞれの事業者とどのようなバリアフリー化を実施するかについての計画がある。特定事業計画という名称だが、それがどこまで達成されているのか、そういう数値のトータルが、平均すると90%ぐらいということになる。細かい部分については、資料がお手元になれば、事務局に言って取り寄せていただくこともできる。元の資料を見ていただくと動いているところと動いていないところがあるのがわかる。不明な点は遠慮なく問い合わせさせていただきたい。
- 委員 : 大森地区の時に、実際に歩いて、標識が見つらい等、申し上げた覚えがある。

来年度のオリンピックに関して、特に外国人等に対して、円滑に移動できるような工夫等はあるのか。

事務局 : 案内のガイドラインについては大田区で作成しているが、オリパラに向けて案内のガイドラインを改正する等といったことは聞いていない。ただし、サインについては、当然外国語表記等の対応はさせていただいている。

委員長 : これまでもやってきているということだ。ユニバーサルデザインの方針の方で何かやっているのではないか。

事務局 : 大田区で、「おおた UD ライフ」という冊子を、福祉部福祉管理課で作成している。内容については、後日ご報告させていただきたい。

委員 : UD ライフという冊子は、区民の方にUDに関して、理解を深めていただくために、普及啓発用の冊子として発行させていただいている。その中で、案内誘導サインは、外国人の方に読みやすい書体で、町中にある案内や誘導サインを外国語での表記も併記した形で掲示する取り組みを進めている。それを普及啓発冊子の中でご紹介させていただいている。

委員長 : 別な部署で進められているということだ。

委員 : UD ライフに関連して、心のバリアフリーハンドブックという冊子が、最新だと、精神と発達の方の特徴を描いたものがある。その冊子は総合的な学習の時間に、ハンドブックとUD ライフを今年度から2冊を同時に、ワークショップを実施する学校に関しては、配布していると聞いているが、ハンドブックは障害者の全体的な、確か外国人や妊婦の方も入っていたと思う。それらの冊子は一般の方に対しては、どこに置いてあるのか、一般の方にもいきわたるようになっているのか。

委員 : 「ユニバーサルデザインまちづくり心のバリアフリーハンドブック」という冊子は、平成26年3月に作成し、また平成29年3月に増補版を作成した。視覚障害者、肢体不自由者、聴覚障害者、知的障害者、精神障害者、子育て中の方、外国人の方の特徴がわかる冊子で、ビデオもあり、小学生にも理解ができる紙面構成となっている。先ほど、話があったように、小中学生向けに、障害者理解ということで、肢体と知的に関して、総合的な学習の時間を使って、子ども向けの疑似体験等も行ったうえで、障害理解を進めるための授業を実施している。その際、パンフレットと、昨年度新たにUD ライフをお配りして、広くUDに関する理解を進めているところだ。これに関しては、福祉管理課や、各地域庁舎で配布している。区民の方にも手に取りやすいようにしている。また鉄道事業者の協力をいただき、広報スタンド置いたが、あっという間に2000部ほどなくなってしまった。今後は小中学校の総合学習の時間で実施する際、ご自宅に持って行っていただいて、保護者の方と一緒に見ていただく、お子様のみならず、保護者の方にもUDに対する理解を進めていただくように取組を進めている。

委員長 : 何部刷ったのか。

委員 :8000 部となっている。
委員長 :総合学習に該当する学年だけでなく、全学年か。
委員 :すごい人数になってしまうので、総合学習で授業を行った学年だけだ。昨年度 8000 部作成し、今年度 11 月ぐらいに第 2 号としてまた 8000 部作る予定だ。
委員長 :できれば、全商店街だとか、企業の方々などに配布が行くようになるとよい。子どもたちだけでなく、大人が理解していないことが一番大きい。家庭に持って帰ることは素晴らしいことだが、4 年生だけではなくて、全小学校、中学校にも配布できるようにしていただけるといい。大変いいことなので、お願いしたい。

2. 今年度の「大田区移動等円滑化推進協議会」の活動について(資料1)

委員 :区民部会のメンバーは決まっているのか。
事務局 :メンバー構成については定めてはいないが、本協議会で参加いただいている区民団体からご推薦いただいて実施してきている。
委員長 :案内が来るかどうかや、日程についてもどうなっているのかということかと思う。
事務局 :案内状を送付して、ご参加いただける方をご推薦いただく予定だ。
委員長 :少なくとも、ここに出てきている当事者団体の皆さんには案内が行くということだ。連れ立って参加してもいいということか。
事務局 :委員名簿を見ていただき、区民等と書かれている 4 番から 13 番の団体の方々にご案内をさせていただく。
委員長 :地区は 10 月に議論される形になるが、こちらは 3 地区以外も想定されているのか、現状ではどのようなお考えか。
事務局 :今まで大田区では、3 地区指定してきたので、それらの地区は促進地区として参りたいと考えている。それと発展的な考えも入れていきたい。例えば、新たなまちづくりが動いている、駅を中心とした地区を選定してまいりたいと考えている。
委員 :区民部会の日程についてお聞きしたい。第 1 回の区民部会は 8 月下旬となっているが、もうすぐ 8 月に入る。8 月のいつか決まっていたら、教えていただきたい。決まっていない場合は、いつごろ通知を予定しているのかお聞きしたい。
事務局 :日程は決まっていないが、決まり次第お知らせしたい。
委員長 :大変暑い時期なので、調整は慎重にお願いしたい。
委員 :先ほどお話あったように 8 月ま近になってからは問題だ。平日に行う予定になっているのであれば、仕事があるので、だれか代理の人を頼むことになる。それでもよろしいか。
事務局 :今回来ていただいている方以外でも大丈夫だ。団体に属さなくてもバリアフリーに興味がある区民であればご参加いただける。
委員 :バリアフリーの知識を持っている方をお願いすればいいか。そうすると、やはりい

つ行うのか、はっきりと決めていただきたい。代理にしてもそれぞれの日程を調整する必要がある。ご考慮いただきたい。

事務局 : 早急に決めてお知らせしたい。

委員長 : バリアフリーの知識がなくても構わない。まちがどうなっているのか、確認していただく方がいい。よろしく願いたい。

委員 : 今日欠席されている、牧野会長であれば、こういう提案をすと思って提案させていただく。視力の方はガイドヘルパーを使う。そのため早ければ早いほどスケジュールが立てやすくなる。依頼もしやすい。ましてやこのような日程があった場合、一色さんと同じように、早めに、いつの午後だとか、午前だとかアウトで構わないので、お知らせを速やかに願いたい。

事務局 : 了解した。

委員長 : 2020 オリパラ等との関係もあったので、次回は資料を整理していただきたい。

委員 : 障害当事者の皆様から様々なご意見いただき、ありがとうございました。区では推進方針の中で、蒲田、大森、さぼーとぴあ周辺を重点地区として、特定事業を設定し、整備の進捗が9割とご説明させていただいたが、障害当事者の皆様の中では、9割と言いながら、体感的にはとても9割ではない、なかなかすいすいいけないという感想をお持ちの方もいらっしゃると思う。そうした中で、区としては、推進プランで、安心するのではなく、促進方針を作り、バージョンアップしていきたいと考えている。また、3地区だけではなく、新たな展開を考えていきたいので、引き続きこの委員会の中で、ご意見を頂き、現状にとどまることなく、さらに発展させていきたい。

以上